



施設栽培における省エネ対策



野菜

寺田 到

上島営農指導センター
090-6897-7996

近年、原油価格が高止まりし、農家の経営面でも大きなウェイトを占めています。そこで、我が家でも出来ることをもう一度、見直していただければと思います。

1、ハウスの気密性を高める。

- (1) ビニールの破れや隙間を無くす。
- (2) 出入り口の内外にフィルムを張り、冷気の流入を防ぐ。
- (3) 谷部、サイドは、妻面から1.5m程度重ね代をとって、風の侵入を防ぐ。

2、多重被覆を導入する。

- (1) 可能な限り多重被覆を導入する。
- (2) カーテンが変質したり、破れたりしている場合は交換又は補修する。
- (3) 寡日照、高温、多湿対策として日中に換気や病害虫防除を行う。

3、夜間に変温管理を行う。

- (1) 夜間の設定温度は、4段サーモなどを活用した温度管理を行う。
- (2) 品質や収量に影響のない設定温度で、管理を行う。

4、暖房効率を高める。

- (1) 暖房機の熱交換面を清掃する。
- (2) 暖房機のノズルの交換、空気量の調整をする。
- (3) 温度センサー位置は生育ステージに合わせる等適切な位置に設置する。
- (4) 温風ダクトの配置は、穴の間隔、ダクト間隔を調整する等適正に配置する。
- (5) 循環扇等の利用のより、温度ムラを少なくし、過剰暖房を防ぐようにする。

5、栽培管理の工夫を行う。

- (1) 整枝、誘引、摘葉等適期管理を行い、採光を図る。
- (2) 品目によって異なるが、夕方適温で、ハウスを閉めて保温する。
- (3) ハウス北側の妻面やサイド部を防寒資材で被覆する。
- (4) 節油のあまり、適温を下回る管理をしない。
※収量が上がらなくては意味がない。

営情

作物・営農・技
情報をお届け



灰色かび病について



花卉

竹川 慶剛

上島営農指導センター
080-1729-1637

・発生の特徴

灰色かび病は寄生範囲が広く、ほとんどの植物で発生します。低温多湿を好むので秋口～冬の初め頃の気温がやや低く、湿度の高い、雨が多くて日照が不足しがちな時期に発生が多くなります。発病適温は15℃～20℃で結露時間が長くなると多発し、植物体表面やその付近が結露しやすい環境下で発生しやすい。

・被害症状

花、茎、葉が溶けるように腐り、さらに病気が進行すると灰色のカビに覆われ、同時に灰色がかった粉(孢子)を多量に形成します。花では始め、花卉に水滴がにじんだ様な跡がつき、白い花では赤い斑点、色のついた花では白い斑点が多数生じます。病気が進行すると花が褐色になり腐ってきて、やがて灰色のカビに覆われます。



トルコギキョウ被害



スターチス被害



金魚草被害

・防除方法

灰色カビ病は湿度を好むので水のやりすぎに注意し、なるべく晴天時に行います。そしてハウス内は風通しをよくして十分な換気をします。枯れた部分にも病原菌が残っているので取り除きます。病原菌は害虫の食害跡やしおれた花卉、チッソ過多により軟弱に育った植物組織などから侵入するので害虫を防除したり、肥培管理を適切にすることで予防できます。殺菌剤ではフルピカフロアブル、ボトキラー水和剤、エムダイファー水和剤、ポリオキシンAL水和剤等が花き類での登録があり、なるべく同じ剤は使わないようローテーションでの散布を1週間～10日おきに散布し予防します。

※農薬散布に葉害などありますので営農センターへお問い合わせ下さい。